

第2節 東奥日報社

清野愛美

はじめに

2010年9月29日に、私たち裁判法ゼミナールは東奥日報社の本社へ訪問し、社会部の工藤記者（記者歴10年目）、鳥谷部記者（記者歴2年目）にお話を伺いました。

私たちが日々の情報を得るためのツールの一つとして、新聞がありますが、どのようにして東奥日報が出来上がるのか、またメディアの在り方などを、ヒアリング調査をもとに報告します。

1. 東奥日報社

(1) 会社概要

東奥日報社は社員数400名、日刊新聞発行部数(朝夕刊完全セットで)25万部の、青森県を代表する新聞社です。明治21年12月6日に東奥日報を創刊し、平成20年に120周年を迎えました。

東奥日報の前身は明治12年発刊の青森新聞、さらに系統をたどれば明治10年発刊の北斗新聞にさかのぼります。これを通算すれば130年以上の歴史があります。

東奥日報社は青森県の発展と県民読者の公益に努めることを基本姿勢に、新聞、出版のほか、活発な各種文化事業を通じ、県民読者から厚く信頼される新聞社として確固たる位置にあります。

平成20年の創刊120周年の節目の年に向けた記念事業のひとつとして、平成19年に東奥スポーツ賞を創設しました。これは国内外の競技会で活躍した本県選手や団体、また選手の育成に取り組んだ指導者や団体を顕彰するものです。

さらに創刊120周年を記念して前途有為な新人の発掘・育成を目的として「東奥文学賞」を創設しました。これは県内在住者、県出身者を対象にしたものでジャンルを問わずに募集するものです。

東奥日報社は新聞報道はもちろんのこと、ウェブサイト「ウェブ東奥」、「携帯サイト」、「速報メール」、「東奥日報CD縮刷版」など、多メディア事業にも積極的に取り組んでいます。紙媒体の新聞を発行するだけの新聞社ではなく、多様化する読者ニーズに応えるためにメディアミックスで最新のニュースを発信しています。



(2) 沿革

東奥日報の前身である「青森新聞」のさらに前身である「北斗新聞」が明治10年3月に発刊されますが、翌年8月100号で廃刊となりました。

明治12年3月6日には「青森新聞」発刊（16年廃刊）、明治16年には「青森新報」発刊（翌年廃刊）、17年9月1日には「秋田青森函館新聞」発刊（翌10月廃刊）となりました。

明治21年11月22日に株式会社東奥日報社を設立（23年に一度解散）し、同年12月6日「東奥日報」発刊し、大正8年9月6日には株式会社東奥日報社が設立されました。

創刊40周年となる昭和3年10月には「東奥年鑑」「青森県総覧」が発行されました。

昭和4年2月には「サンデー東奥」が、昭和14年2月には「月刊東奥」が発行されました。

昭和16年12月22日に八戸合同、弘前新聞、青森日報、東北タイムスの県内日刊紙を東奥日報に統合し、19年3月6日夕刊が廃止されました。

紙齢2万号（60周年）となる昭和23年2月10日には「東奥賞」が制定されました。

昭和25年2月11日には「日刊青森」の題字で夕刊が復活し、21日から「夕刊東奥」と改題され、6月9日から東奥日報夕刊となりました。

平成5年11月22日に現在の青森市第二問屋町3丁目1番89号に本社移転となり、平成11年8月23日には初のこども新聞「東奥こども新聞」が発行され、同年11月11日にはホームページ「ウェブ東奥」開設、平成18年11月には季刊フリーペーパー「クラシコ」創刊されました。

(3) 東奥日報本社の所在地

〒030-0180 青森市第二問屋町3丁目1番89号

TEL 017-739-1111（代表）



マピオン地図より掲載

2. 新聞ができるまで

① 取材

取材記者は事件や事故、政治経済、スポーツ、文化や芸術、そして地域の話題など、新聞づくりの材料となる情報を集めるために現場を駆け回っています。そして、集めた情報をもとに、記事を書きます。

また、県内外の記者や、共同通信社などから送られてくる記事や写真類は、機械報道班で受信します。

② 編集

ニュースの価値判断や画像品質のチェック、放送局へのニュース配信は、政経部、社会部、整理部のデスクによって行われています。

出稿部のデスクでは、県内外に散らばる記者たちに取材の指示を出し、その原稿にミスや書き足りない部分がないかなどチェックを入れています。次に、パソコンに入力された記事に、入力校正部によって誤字や脱字などが入念にチェックされます。

入力校正部の点検が終わると、整理部へ出稿されます。原稿を受け取った整理記者は見出しをつけ、紙面をレイアウトします。

③ 印刷

広告局では、デジタル入稿で版下を受け付けています。

印刷部によって、完成した紙面はネガフィルムに出力され、新聞を印刷するための原板（刷版）を作ります。その刷版を機械にかけて、新聞が印刷されます。

④ 発送

印刷された新聞は、すぐに県内の販売店ごとに必要な部数に分けて、自動的に梱包されます。新聞販売店へ運ばれた新聞は、チラシなどを折り込み、分けられ配達員によって読者に届けられます。

※東奥日報は、デジタル編集部によってインターネット配信もされています。東奥日報のホームページ「Web 東奥」の運営・管理をはじめ、インターネット号外の作成、f（ふるさと）メールの発信などが行われています。

3. 記者クラブ

（1）記者クラブとは

取材の特徴として、記者クラブによる取材が挙げられます。

日本新聞協会によると、「記者クラブは、公的機関などを継続的に取材するジャーナリストたちによって構成される取材・報道のための自主的な組織」と位置付けられています。

現在、日本国内には大小様々な記者クラブが存在しています。

東奥日報は青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、朝日新聞、FM青森、河北新報、共同通信、産経新聞、時事通信、デーリー東北、日本経済新聞、NHK、毎日新聞、陸奥新報、読売新聞、フジテレビと共に、青森県政記者クラブ（県庁担当）を形成しています。

他に青森社会部記者会（県警担当、16社加盟）などがあります。

(2) 記者クラブのメリット

報道機関の記者同士で意思の疎通ができます。また、企業や団体の公式発表などを迅速にマスメディアに伝達する事が可能になります。意思疎通の具体例としては、裁判員裁判で、一気に一人の裁判員に押し掛けることがなく、お互いにスムーズに取材を進めることができるということが挙げられます。

また、記者クラブは、いくつかの報道機関の記者が集まった特殊な取材機組織であるため、偏った圧力や不公平な情報が流れにくいといったメリットもあります。

(3) 記者クラブのデメリット

記者会見を行うにあたって、情報を提供する側の企業や役所に、記者室のスペース提供などの便宜を図ってもらっているため、悪いところを指摘しにくいということが挙げられます。

また、排他性があるため、記者クラブに所属していない記者は、記者クラブに所属していないことを理由に、行政や企業から情報提供を受けられない可能性がでてくるといったデメリットもあります。

ただし、情報を提供する側の政治家や官公庁の担当者、企業などが、自分たちにとって不都合なことは取材に答えない、といった対応をとったとき、記者クラブとして記者会見への出席を求めるなどして、取材が深まることがあります。

また、便宜を受けている相手に遠慮しているのではないかと市民に疑問を抱かれられないためにも、報道機関は常に緊張感を持って取材しています。

4. 裁判に関する記事について

今回、東奥日報社を訪問するにあたって、社会部の工藤記者と鳥谷部記者が対応してくださり、事前にお渡しした質問事項について、限られた時間の中でお答えいただきました。

(1) 会社概要

(問) 東奥日報社・東奥日報の特色は、他社・他紙と比較して、どのような点にありますか。

(答) 青森県内で起こった事件・事故は詳細に記事にすることができるため、他社では載せないような細かい記事を載せたり、他社では全国の大きな事件を大きく載せるところを、地元のニュースを大きく扱ったり、おくやみを載せたりして、他社との差別化を図っています。これは、地方紙は情報量を求められていると考えているからです。

(問) 記者はどの程度独立して取材、記事執筆できますか。

(答) 4月に入る一週間前には研修を終え、4月初日から現場に同行し、2週目からはすでに1人で取材・記事を担当するため、入社当初からかなり自立した職場だと感じるというのを、鳥谷部記者は仰っていました。

他方、工藤記者は、記事を担当することが独立ではなく、企画・立案の観点から考えると、入社1~2年目は記者としての基礎体力もなく独立していないとお考えでした。

(2) 司法報道

(問) 裁判関係の話題や、犯罪を報道するにあたって、基準のようなものはありますか。

(答) 基本的には被害額が大きくなければ万引きなどは載せず、裁判員裁判や、殺人、強盗、性犯罪などの凶悪事件や、贈収賄といった権力犯罪など、社会的重要性があり、読み手が読みたいと思うかどうかを基準にしています。

(問) 警察や検察の事件の見方は、記事に反映されますか。

(答) かなり反映されます。容疑者や弁護士にはなかなか取材することができないため、事実関係においては警察や検察の情報が反映されます。しかし、一方的な決め付けにならないよう、双方の話を聞くように努力しています。また、載せている記事が警察側の情報によるものであれば、そのことを明確にするよう心がけています。

(問) 裁判所と報道機関の関係について教えてください。

(答) 裁判所は基本的に開かれた場所となっているため、裁判所と対立していると感じたことはありません。撮影などに関しては裁判所と決まりごとを作ったり、記者クラブと連携したりして、常に情報公開を求めています。

(問) 裁判員経験者に対して、どのような関心から、どのようなことを心がけて取材されますか。また、守秘義務について教えてください。

(答) 会見で裁判員経験者に必ず聞くことは裁判のことです。例えば、タイムスケジュールのことや、一般人が人を裁くことに関してなど、長期的に裁判を続けていくうえで重要な参考になることです。ただ、守秘義務に関して、聞くことはできるが記事にはしない、という約束でしたが、実際は裁判員経験者に質問することが難しい状況です。

(問) 裁判員裁判と裁判官のみの裁判に違いは感じられますか。

(答) 違いは感じます。裁判員裁判の方が分かりやすいと思います。裁判官のみの裁判とのスタンスの違いを、実際に法廷を傍聴してみれば実感すると思います。

(問) 逮捕され、起訴された人を、マスメディアはどのように扱うべきだと考えていますか。

(答) 裁判で有罪になる前から「犯人」という言葉は使わず、「容疑者・被告人」と記しています。本来は有罪になるまで匿名であることが望ましいのですが、「誰」が事件の裁判にかけられるのかが国民の最も気になるところです。容疑者・被告人の人権と、国民の知る権利のバランスをとらなければならず、難しいところですが、未成年や刑事責任能力がない場合は、匿名にするなどの配慮をしています。

(3) その他

(問) 市民に対してメディアの持つ影響力の大きさについて、情報を発信する側からどのように感じられますか。

(答) メディアの持つ影響力は大きいと思います。そのため、論評¹はせず、客観的に記事を書くように気をつけています。また、読者は写真や名前を載せるなどプライバシーに敏感なため、匿名であっても本人が特定されてしまう場合があるので、その点にもかなり気をつけています。

(問) 今と昔で変わったことはありますか。

(答) 記事のクオリティーの向上や、記事の扱い方なども変わりましたが、特に取材の仕方が変わったと思います。以前は警察などのお役所も大らかでしたが、現在は必ず事務的なステップを踏まなければ取材ができません。市民への取材も、今は記者があまり快く受け入れてもらえないことがあります。

(問) ジャーナリズムが背負う使命はどのようなものであると思われますか。

(答) 実際に現場を体験できなかった人にも、後から体感できるような記事を書くことが使命だと思います。そのために、記事には五感を入れるようにしています。また、事実、真実を追い求め、第三者に伝えた記事は世の中の日記のようなものだと思っています。

(問) これからの展望を教えてください。

(答) もし警察が権力を持って濫用するようなことがあれば、それに立ち向かえるような記事を書けるように、また、当事者の生きざまや街のにおいを感じさせる取材ができるようになりたいです。

おわりに

私は今まで、新聞の読み手の1人でしかなく、記事の内容を読むだけでしたが、今回東奥日報社を訪問させていただき、お話を伺って初めて、記事を作る側のことや、記事が出来上がる過程を知ることができました。1つの新聞が出来上がるまでには様々な工程があり、普段の生活では知ることのできない作り手側の現場を少しでも知ることができ、とても良い経験になったと思います。

また、メディアには大きな影響力があります。そのため、特に司法に関するニュースでは、メディアは警察や検察側に偏った意見にならないよう、中立的・客観的に情報を提供する必要性を深く感じました。

一方、情報の受け手である私たちも、流れてきた情報を鵜呑みにせず、情報源はどこなのかなどを考えた上で、情報を処理していく必要があると思いました。

情報操作によって冤罪事件が起きないように、情報を提供する側も受け取る側も気をつけなければなりません。

最後になりましたが、貴重なお時間を割いてヒアリングに応じてくださった工藤記者、鳥谷部記者、本当にありがとうございました。

¹ 一般の記事は、客観的な事実や当事者のコメントを基に書きます。
論評(オピニオン)は「解説」など、一般の記事とは違うことを明示するなどの工夫がなされています。

参考文献・URL

Web 東奥 HP <http://www.toonippo.co.jp/>

記者クラブ一覧情報館 HP <http://www.kisha-club.jp/>

中日新聞 HP <http://www.chunichi.co.jp/nie/make/index.html>

加藤紘一、奥平康弘、斎藤貴男、若宮啓文、枝野幸男『ジャーナリズム・権力・世論を問う』(新泉社、2010)



ヒアリング風景



東奥日報社前にて